

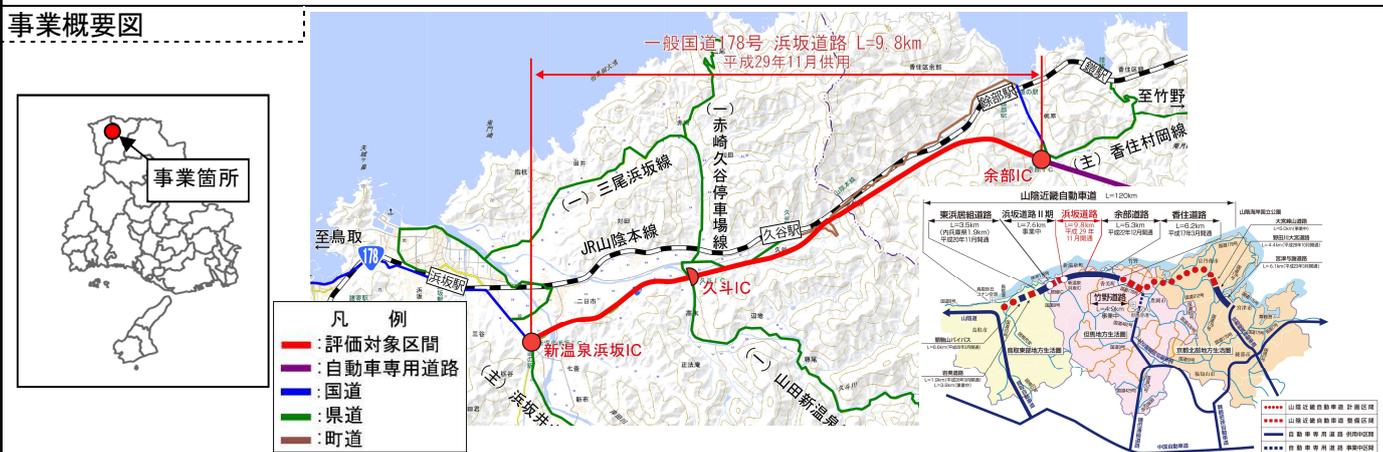
事後評価結果（令和4年度）

担当課：兵庫県土木部道路街路課
担当課長名：田中 秀典

事業名	地域高規格道路 鳥取豊岡宮津自動車道 一般国道178号 浜坂道路	事業区分	一般国道	事業主体	兵庫県
起終点	自：兵庫県美方郡香美町香住区余部 至：兵庫県美方郡新温泉町柘谷	延長	7.6km		

事業概要
一般国道178号浜坂道路は、地域高規格道路鳥取豊岡宮津自動車道の一部を構成する道路であり、移動時間の短縮、観光の振興等を目的とし、余部IC～新温泉浜坂ICまでの延長約7.6kmを整備するものである。

事業の目的・必要性
一般国道178号浜坂道路は、交流の促進、産業の活性化観光の振興等、地域の自立的、主体的な活動を支援するとともに、広域防災拠点・3次救急医療機関へのアクセス性向上などに大きく寄与するものである。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	H20年度	用地着手	H22年度	供用年	(再評価) — / H29	変動	1.0倍
		都市計画決定	—	工事着手	H23年度	(暫定/完成)	(実績) — / H29		
	事業費	再評価時 (暫定/完成)	(名目値) — / 約396億円 (実質値) — / 約405億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) — / 約369億円 (実質値) — / 約378億円	変動	0.9倍		
	交通量 (当該路線)	再評価時 (暫定/完成)	— / 9,200台/日	実績 (暫定/完成)	— / 3,066台/日	変動	33.3%		
旅行速度向上 (供用前現道→当該路線)	46.5 → 62.2 km/h (供用直前年次) H27年度 (供用後年次) R4年度		交通事故減少 (供用前現道→当該路線)		31 → 4 件/年 (供用直前年次) H26-H29年度 (供用後年次) H30-R3年度				
費用対効果 分析結果 (再評価)	B/C	1.4	総費用	351億円 (事業費：339億円 維持管理費：11億円)	総便益	476億円 (走行時間短縮便益：366億円 走行経費減少便益：84億円 交通事故減少便益：26億円)	基準年 平成26年		
費用対効果 分析結果 (事後)	B/C	1.4	総費用	497億円 (事業費：480億円 維持管理費：16億円)	総便益	675億円 (走行時間短縮便益：520億円 走行経費減少便益：118億円 交通事故減少便益：38億円)	基準年 令和4年		
事業遅延によるコスト増		費用増加額	133億円		便益減少額	58億円			
事業遅延の理由 国における幹線道路事業着手手続きの見直し及び地質調査の結果によるトンネルの掘削工期が延伸したことにより、事業完了が平成29年度になった。									

	<p>交通量変動の理由</p> <p>計画交通量9,200台については、令和12年度の予測として算出している。令和12年度には、国土交通省が事業を進めている北近畿豊岡自動車道が全線供用、兵庫県が事業を進めている竹野道路の開通も見込まれているため、その条件を反映した数値である。よって、現況交通量と乖離が生じている。</p>
	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <p>① 移動時間の短縮・走行性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅員狭小区間や線形不良区間の回避が可能となり、浜坂～余部間の走行時間が約6分短縮した 地域住民及び観光施設利用者ともに「時間」に関する効果を実感した割合が高い <p>② 防災機能の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 異常気象時通行規制区間の回避が可能となり、異常気象時における道路ネットワークが確保できた 旧国道178号では、地滑りにより通行止めが発生しているが、地域間交通に支障は生じていない <p>③ 救急搬送時間の短縮</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立豊岡病院が運用するドクターカーと救急車が、特定の地点で合流して患者の引き渡しを行う「ドッキング」までの時間が短縮され、医師や看護師による救命措置の迅速化が図られている 平成30年7月豪雨の際、兵庫県但馬地域では複数の県道で規制雨量に達するなどして通行止めが発生したが、緊急車両の通行路が確保でき「いのちの道」としての役割を果たすことができた <p>④ 交通事故の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧国道178号の自動車交通量が約8割減少したため、浜坂道路周辺地域における交通事故件数が31件から17件に減少しており、地域の交通安全性の向上が図られている <p>⑤ 観光の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜坂道路周辺の観光施設の入込客数は、浜坂道路の整備時から新型コロナウイルス感染症拡大前までは増加傾向にあり、観光客から見た整備に対する満足度も高い <p>⑥ 地域間の交流拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 浜坂道路の供用を見据え、平成27年度に新温泉町、香美町及び鳥取県岩美町の3町で図書館の「相互利用」に関する協定が締結された 新温泉町立加藤文太郎記念図書館の貸出冊数は、浜坂道路の開通により大幅に増加した
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
<p>事業による環境変化</p>	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>浜坂道路の整備によって通過交通が転換し、旧道区間の交通量が減少したため、旧道沿線の地区における騒音の軽減や、CO2排出量の削減及び大気質の改善に繋がっていると考えられる。</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし。</p>
	<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <p>山陰近畿自動車道約120kmのうち、鳥取県内は10.1km、兵庫県内は23.2km、京都府内は10.5km 合計で総延長の約37%にあたる43.8kmが供用している。</p> <p>現在、鳥取県内は岩美道路の3.8km、兵庫県内は浜坂道路Ⅱ期と竹野道路を併せて12.5km、京都府内は大宮峰山道路の5.0km、合計で総延長の約18%にあたる21.3kmが事業中である。</p> <p>上記のほか、国土交通省が事業を進めている北近畿豊岡自動車道は、豊岡道路が令和6年秋に開通予定と公表されるなど、浜坂道路周辺を取り巻く環境は刻々と変化している。</p>
	<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>投資効果が確認されており、今後の事業評価及び改善措置の必要性がないと判断される。</p>
	<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>本事業においては「新温泉町山陰近畿自動車道整備推進協議会」等において意見交換を行い、地域住民の意見を踏まえながら、ルート検討やIC配置など計画策定を行った。現在事業中の「浜坂道路Ⅱ期」などの整備に際しても、地元住民との対話を大切に事業の進捗を図っている。</p>
	<p>特記事項</p> <p>特になし。</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価値を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。